

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:平成27年度)

施設の名 称	宮城県蔵王野鳥の森自然観察センター
指定管理者の名 称	特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会
施設所管部 課(室)	環境生活部 自然保護課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
平成18年 4月～平成21年 3月	指定管理者	社団法人宮城県林業公社	
平成21年 4月～平成24年 3月	指定管理者	特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会	
平成24年 4月～平成29年 3月	指定管理者	特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指定管理者の名 称	名 称	特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会
	所在地	宮城県利府町神谷沢字菅野沢41
指 定 期 間	平成24年4月1日～平成29年3月31日(5か年)	
募 集 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施設の名 称	宮城県蔵王野鳥の森自然観察センター		
所 在 地	刈田郡蔵王町遠刈田温泉字上ノ原162-1		
設 置 年 月	平成6年4月		
根 拠 条 例 等	自然観察センター条例		
設 置 目 的	優れた自然と多種多様な野生動植物との触れ合いを通じて県民の自然保護思想の向上に資するため、自然観察センターを設置する。		
施設の内 容	敷 地 面 積	6, 149.99㎡	
	構 造	鉄筋コンクリート造 一部2階建	
	内 容	1階 504.37㎡	2階 623.70㎡
開 館 (所) 日	◇ 月曜日(休日を除く)を除く日 ◇ 休日の翌日(休日,日曜日,土曜日を除く)を除く日 ◇ 12月28日から翌年の1月4日までを除く日		
開 館 (所) 時 間	午前9時～午後4時30分		
指定管理者が行う業務の範囲	(1) 自然保護思想の普及及び啓発に関すること。 (2) 自然環境の保全に関する学習に対する支援に関すること (3) 蔵王野鳥の森の自然環境についての情報の収集及び提供に関すること。 (4) 自然観察センターの維持管理に関する業務 (5) 上記の他、自然観察センターの設置目的を達成するために知事が必要と認める業務		
利 用 料 金 制	採用の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
	利用料金の名称	入館料	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成27年度) (A)	前 年 度 (平成26年度) (B)	評価対象年度 (平成27年度) (C)		
開館(所)日数	304 日	302 日	304 日	100.0%	100.7%
延べ利用者数	12,700 人	12,149 人	7,384 人	58.1%	60.8%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成27年度) (A)	前 年 度 (平成26年度) (B)	評価対象年度 (平成27年度) (C)		
有料入館者	3,800 人	3,506 人	2,925 人	77.0%	83.4%
無料入館者	8,900 人	8,643 人	4,459 人	50.1%	51.6%
	人	人	人		
	人	人	人		
	人	人	人		
合 計	12,700 人	12,149 人	7,384 人	58.1%	60.8%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成27年度) (A)	前 年 度 (平成26年度) (B)	評価対象年度 (平成27年度) (C)		
県指定管理料	23,863	23,863	23,863	100.0%	100.0%
利用料金収入	1,000	1,095	944	94.4%	86.2%
その他	1,032	1,488	965	93.5%	64.9%
収入計 (a)	25,895	26,446	25,772	99.5%	97.5%

(2) 支出

人件費	15,156	15,406	15,258	100.7%	99.0%
施設管理費	3,065	2,876	2,772	90.4%	96.4%
事業運営費	7,674	8,161	7,739	100.8%	94.8%
その他	0	0	0		
支出計 (b)	25,895	26,443	25,769	99.5%	97.5%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	3	3		100.0%
前期繰越収支差額	61	58	61	100.0%	105.2%
次期繰越収支差額	61	61	64	104.9%	104.9%

※ 自主事業の収支実績

収 入	1,000	1,445	940	94.0%	65.1%
支 出	980	1,373	914	93.3%	66.6%
収 支	20	72	26	130.0%	36.1%

6. 評価対象年度(平成27年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
①管理運営体制	<p>所長1名・管理職員1名・準職員6名・経理サポーター1名で管理運営に当たりました。管理運営の内容は「自然と人との共生」を基本コンセプトに</p> <p>① 教育機関に野外体験の場としての有効性をPRし、利用者向上を図りました。また、蔵王自然の家と協力体制を継続し利用者の利便性を向上しました。</p> <p>② 蔵王野鳥の森観察路の利用の勧めとガイドを強化し、癒しの空間を提供するとともに、施設を活用したイベントを多数実施しました。特に冬期間のスノートレッキングを開催し好評を得ました。また、近隣宿泊施設と協働でイベントを行い地元に着した愛される施設を目指し活動しました。</p> <p>③ ことりはうす・蔵王野鳥の森は安全・安心は当たり前の考えに立ち、随時巡視を実施し危険箇所があれば即日に応急処置を実施しました。</p> <p>以上のことを、効率的、効果的に運営を行うために人材の育成を継続的に効率化に繋げました。資質や能力の向上策として</p> <p>① 自然観察会のスキルアップ研修(蔵王ガイド協会員等を講師及び他の施設のイベントの参加)</p> <p>② 刈払機、チェーンソー取扱いの内部安全研修を実施しました。</p> <p>③ イベント企画力向上研修(他の施設と協働研修)</p> <p>以上のことを実施しました。また、管理運営に当たり甲種防火管理講習修了者及び宮城県防災指導員、乙種4類危険物取扱者免状所持者をもって人員配置しました。</p>	<p>人員配置に変更はなく、予定通りの人員で管理運営に当たりました。</p> <p>教育機関に蔵王野鳥の森を活用した自然体験及びことりはうす利用の周知活動を行いました。蔵王山の火口周辺警戒警報の影響で、特に学校関係の入館者が伸びませんでした。</p> <p>地元宿泊施設と共同でイベントを行い、えぼしスキー場など他の施設への協力を継続しました。</p> <p>自主イベントについては参加者の意見を取り入れて、各年代層に合わせたイベントを実施しました。冬期間のスノートレッキング体験は定着しておりますが、本年度は雪不足のため不調でした。初の試みとして主に子どものいる家族対象の雪遊び体験を取り入れたところ、雨天にも関わらず思った以上の参加者を得、好評でした。</p> <p>蔵王野鳥の森の整備は作業ボランティアの協力を得て、計画的かつ効率的に実施し、困難な枯損木の処理に関しては森林組合に依頼しました。</p> <p>前述の影響で教育関係の利用者は少なかつたものの、県外を含めた教育関係での継続利用は見られました。未就学児の自然観察ガイド及びクラフト体験は好調でした。</p> <p>自主イベント回数は総数で96回でした。</p> <p>入館者と入館料は平成26年度比</p> <p>入館者数:60.8%</p> <p>入館料収入:86.3%</p> <p>となり当初の目標だった</p> <p>入館者数:12,700人</p> <p>入館料収入:1,000,000円を下回りました。</p>	A	<p>施設の小さな手入れなど、誠実な管理がなされたと認めます。</p> <p>蔵王山の立入規制等による入場者数の減等などの要因はありましたが、新たな自主企画事業の取組などの今後の展開に期待します。</p>	A
②施設・設備の維持管理業務の実施	<p>「施設の保守・管理に関する業務計画」に従い各業務を実施しました。</p> <p>外部委託の進入路除雪業務では降雪時に管理車道、駐車場及び上部駐車場までの除雪を行いました。</p> <p>職員が実施する業務として</p> <p>○ 巡回時の指導は野鳥が営業時に付近で行動する場合の注意点、有害動植物の説明、園内動植物の情報提供の依頼を実施</p> <p>○ 展示・案内・解説は倉庫に収納されている野鳥のハクセイや模型を活用し動きのある展示を実施</p> <p>○ 建屋、貸与品の軽微な修繕は職員が実施しました。新たに作業機や展示用機を製作しピロティや館内に設置しました。</p> <p>○ 野鳥の森観察路の維持管理では各観察路の枯損木の伐採、横断溝の清掃、法面の補修、土砂流出箇所の修繕を行いました。</p>	<p>業者委託分は予定通り行いました。</p> <p>職員が実施する業務では</p> <p>○ 巡回指導は巡回時に巡視報告書を作成し 職員間の情報の共有化することで効率的に森林整備を行いました。</p> <p>○ 展示・案内・解説は希望者に館内の案内をすることで館内の滞在時間が長くなりました。</p> <p>○ 館内入口付近に野鳥の森のイラストマップを掲示し森の様子を分かり易くし、また、吹き抜けに照明器具を付けることで明るく見やすくなりました。</p> <p>○ 北側ピロティの木製テーブルと椅子を塗装をし直し、連絡路にチップを敷くなどし、快適に利用できるようにしました。</p> <p>○ 観察路の維持管理は計画的に行うとともに、野鳥の森内で行うイベント時の情報も取り入れたところ、予定を上回る効果を得ました。また、今後の維持管理方法に繋ぐことができました。</p> <p>○ 建屋周りの森林再生整備をし、生物多様性等に利用できるようにしました。</p>	A	<p>計画的な観察路の手入れなど、適切に維持管理されています。</p>	A
③運営業務(ソフト事業等)の実施	<p>多数の幅広い年齢層の県民がいつでも気軽に訪ねられるように、以下の施策を設定し運営を行いました。</p> <p>① 展示学習強化プログラム</p> <p>季節ごとに施設展示物を提供できることや県民のクラフト及び写真を展示できる場所として2階ホールの展示コーナーを活用しました。また、教育関係や児童館などへ総合学習のプランニングの働きかけの実施と館内の常設クラフトコーナーの材料を充実させました。</p> <p>② 自然体験強化プログラム</p> <p>自然観察の「野鳥のくらしを知ろう」を年に2回シリーズで実施、野鳥の森ガイドサービスは毎週日曜日に実施し、それぞれ特徴のある内容にしたことで参加者の選択肢が広がりました。</p> <p>③ 広報活動強化プログラム</p> <p>ことりはうすのホームページやブログを随時更新し、イベント情報や施設案内をタイムリーに提供しました。園内にも提示版を増設するとともに、他の公共施設にも各種情報を掲示しました。また、各市町村の広報誌にもことりはうす情報や各種案内を掲載しました。</p>	<p>① 展示コーナーの活用や総合学習のプランニングの働きかけを行ったことで集客増に繋がりました。また、来館者がいつでもクラフトコーナーを利用できることで滞在時間も長くなり目的を達成できました。</p> <p>② 来館者の要望を取り入れ、野鳥の森ガイドを毎週実施し森の案内と子どもハイキングに分けてストレスなくガイドウォークに参加してもらえるようにしました。また、蔵王の自然環境を活用したイベントも好評でした。</p> <p>③ ホームページや各市町村の広報誌にイベント情報や施設案内を記載しました。また、ミヤテレ・東北放送で計3回ことりはうすと野鳥の森の情報を放映してもらったことでことりはうす情報を広く周知できました。ホームページは画像を多くして見やすくし、ブログも含めタイムリーな更新を心がけました。</p>	A	<p>利用者の趣向を考慮した事業展開は評価します。また、地域広報誌等マスコミを活用したPRの取り組みなど評価しますが、残念ながら、施設の認知度が低いという声もあり、一段工夫が必要であると考えます。特に、低学年生を対象とした校外学習での利用促進に力を入れていただきたい。</p>	A

④自主事業の実施	蔵王野鳥の森自然観察センター自主企画事業を96回実施し722人の参加を得ました。	平成26年度の実施回数は103でしたが、平成27年度は雪上トレッキングの開催数が減ったことなどから96回の実施となりました。	B	運営業務同様に、利用者の趣向を考慮した事業展開は評価します。 野外活動(行事)は天候に左右されるため、セッティングが難しいと思いますが、さらに活発に展開いただき、知名度の向上と利用者増につなげていただきたいと思います。	B
⑤利用者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者が気軽に休憩をとれるとともに来館記念品販売コーナーを見ながら休憩できる環境を作りました。 ○ 野鳥の森を気軽に散歩できるように定期的にガイドを実施し、希望に応じて随時ガイドを実施しています。 ○ ネイチャークラフト体験コーナーを常設し、材料、道具を常に準備しておき、いつでも誰でもクラフトを体験できるようにしました。材料は除伐材や木の実を主に使用しています。 ○ 2階ホールの特別展示コーナーを利用し、県民による作品(クラフトや写真)の展示を5回実施しました。 ○ 無料開放日として4月29日(開館記念日)、5月10日～5月16日(愛鳥週間)及び毎月第4水曜日を設定しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 清涼飲料水の自動販売機を設置しました。特に夏場は売り切れがないよう業者と連絡を密にしました。 ○ 野鳥の森ガイドは子どもの目線に立った案内ができるよう、子ども向けのハイキングを実施しています。希望があれば平日でも森のガイドを行ないました。森林浴教室も月1回実施しています。 ○ ネイチャークラフト体験コーナーの常設と写真・クラフト等の展示コーナーの活用及び無料開放日は予定通り実施しましたが誤徴収を鑑み管理体制の強化を図り再発防止に努めました。 ○ 森の利用者に対しては、プリントアウトした地図の裏面に等高線入りの地形図を入れることで、歩きやすさの目安がつけられるよう工夫をしました。 	A	利用者視点でのサービスの努力の跡が見て取れ、業務連絡等の確認(朝礼等の実施・引き継ぎ事項の確認等)に一層緊張感を持って努めていただきたいと思います。	A
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	利用者の意見、要望等は「ご意見カード」に記入していただいております。設置場所は入館者受付カウンターと2階休憩コーナーの2か所に設置しました。また、寄せられた意見や要望等に対しては迅速に対応しました。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ご意見カード回収数:93枚 ○ 意見記載カード:7枚 ○ 意見対応枚数:7枚 <p>意見や要望については目標通り全てに対応しました。</p>	A	ご意見カードの意見や要望等に対して迅速に対応している。	A
⑦安全対策	<p>各観察路の沢に架かる階段の補修工事、枯損木の伐採、横断溝の修繕、法面の補修、土砂流出箇所の修繕の実施。</p> <p>また、道標の破損部分の修理や観察道分岐点の明確な表示を行いました。</p> <p>防災に関しては消防計画書を作成し消防計画に従い消防点検票による点検を実施しています。</p> <p>なお、災害や事故発生時に職員が滞りなく連絡は取れるように緊急連絡体制を整備し明示しています。また、緊急を要する傷病等の発生に備え、近隣の病院の連絡先を事務所内の目立つ場所に掲示しています。</p> <p>観察路付近の危険木の一部は森林組合に委託しました。</p>	<p>観察路の安全管理は巡視結果に基づき計画的に実施しました。</p> <p>防災に関しては、消防計画に基づき各種点検と消防署の指導のもと消防訓練を実施しました。</p>	A	観察路については、常に巡視し補修等を行い利用者の安全が図られている。 災害や事故発生時の緊急連絡体制が明確になっており、見やすく掲示されている。 また、防災に関しては防災指導員養成講習を複数受講し、防災に備える自主体制を整えるなど高く評価する。	A
⑧県民の平等利用	<p>利用者の平等利用のために、特定の個人や団体、グループに対し有利や不利にならないようにしました。特に障がいを持った方や弱者に対しては可能な限り安全かつ負担にならないように対応しました。一方、行為の制限や入館の拒否などの事項が発生した場合にも当該者が十分納得できる説明を心がけました。</p> <p>また、野鳥の森とことりはうすが県民に等しく開かれた施設であることを周知してもらうために、県内の公共施設・民間施設・マスコミ関連各社などへ、園内の施設利用や各種イベント情報の提供を積極的に行いました。</p>	<p>利用者によって有利や不利にならないのが当然ですが、障がいを持った方や弱者のために案内板や掲示板の文字を大きくしました。また、館内の案内時も声を大きくゆっくり説明するようにしました。</p> <p>行為の制限や入館拒否などの事例は発生しませんでした。</p> <p>ホームページや各市町村の広報誌にイベント情報や施設案内を記載しました。また、TBSラジオや東日本放送で放映したことで、ことりはうす情報を広く周知しました。なお、より広範囲に情報提供を行うため、地元観光協会と協働で情報の発信を行いました。</p>	A	利用者の利便性の向上やマスコミ等と連携するなど誠実な取組は評価できます。	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	蔵王野鳥の森自然観察センターの管理に関する協定書第21条を遵守し、イベント参加者等からの個人情報の収集は本人に十分説明し実施しました。特にご意見カード協力者やイベント参加者の個人情報は集約化し、管理事務所長を個人情報保護管理者に定めて責任を明確にしたうえで管理保管しました。 また、職員へは個人情報取り扱い関連書類の回覧や日常の業務連絡で周知徹底しました。特にイベント受付者には、その都度注意を促し終了時には速やかに情報の移行を励行しました。	左記のとおりですが、イベント参加者の名簿はイベント終了時に速やかに個人情報管理者に移行するようにイベント時ごとに注意を促しています。また、ことりはうすボランティア名簿も個人情報として管理し取り扱うよう指示徹底しています。 個人情報は全て金庫に保管し施錠しています。	A	適切に取り扱われています。	A
⑩利用実績	上記「4. 施設利用実績」のとおりです。	○利用料金収入：平成26年度比86.3% ○利用者数：平成26年度比60.8% ○自主企画収入：平成26年度比65.1%以上の結果となりました。	B	昨年に気象庁から出された蔵王山立入制限等の影響もあり、利用者減はとなったのは残念でした。 次年度以降は回復されるよう期待します。	B
⑪収支実績	上記「5. 管理運営収支実績」のとおりです。	○利用料金収入：平成26年度比86.3% ○自主企画収入：平成26年度比65.1%以上の結果となりました。 なお、費用対効果を考慮した予算の活用を行いました。	B	同上	B
⑫その他の取組	8月にえぼしスキー場のイベントに参加するなど、講師派遣や協力出店にも力を入れました。 近隣の宿泊施設と夏休み期間を利用した協働イベントを企画し、事業の拡大を図りました。 環境配慮の取り組みについて、県の環境保全率先実行計画に準拠し、環境負荷の低減に努めました。	蔵王自然の家と協力体制を取ることで入館者増が図られました。 様々な事業を行い、近隣施設や住民と交流を重ねることで施設の周知を図ることができました。 小学校への巣箱掛け体験の出張講座やグループホームへの出張草木染体験など、ことりはうすへ来ることが出来ない人たちに協力しました。	A	様々な事業の企画など創意工夫による努力は評価します。これを実績につなげるためにも、事業広報等の工夫も重要です。今後の取組に期待します。	A
総合評価		指定管理第2期4年目に当たり、事業計画書に則った活動を行い、計画通りの活動を行いました。蔵王山立入規制等により、入館料・入館者とも実績を伴うことはできませんでした。	B	誠実に管理運営されています。努力と工夫も十分評価に値します。また、蔵王山の影響は地域全体の課題でもあることから、当該施設の認知度向上に向けた新たな取組に期待します。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	1 火山情報による施設利用者の減少 蔵王山火山情報の報道により学校関係の予約の取り消しと予約の減少が発生しています。また、公民館主催事業や子ども育成会の申し込みの落ち込みが顕著になりました。そこで直接、ことりはうす利用案内を仙南地区の小学校・中学校の全校に配布するとともに火山情報を館内の数か所に掲示し正確な情報の周知を図ります。 2 野鳥の森内の工作物の劣化と枯損木(危険木)の処理 野鳥の森内の観察路の階段の劣化が激しいので安全に通行するのに支障のある箇所から計画的修繕を行います。また、枯損木についても巡視回数を増やし計画的に処理するとともに大木などは森林組合にも協力を依頼し、より安全な施設運営を行います。	蔵王山風評の影響等もあるが教育関連団体等との連携を強化し、引き続きPR活動等に積極的に取り組んでいただきたい。また、施設の認知度向上に向けて、さらなるPR手法の検討と工夫を願う。 十分な予算が無い中で大変とは思いますが、安全確保に知恵を絞って取り組んでいただきたい。